

指導資料

特別活動 第21号

 鹿児島県総合教育センター
令和3年4月発行

対象
校種

小学校 義務教育学校
特別支援学校



今こそ、「なりたい自分」に向けてがんばる力の育成を —学級活動(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」の実践を通して—

「なりたい自分」に向けてがんばる力は、これまでも求められてきた力だが、これからの時代を生きる子供たちにとって、極めて必要な力ではないか。そこで、本指導資料では、学級活動(3)の実践を通して、「なりたい自分」に向けてがんばる力の育成に迫っていく。

1 はじめに

夢や希望は、明日を生きていく原動力となるものである。児童が現在や将来に夢や希望を抱き、その実現を目指して物事に取り組むことは、「今の自分」に価値や意味を見出すことにつながる。

多くの学級では、今年度や各学期における児童一人一人の目標が教室に掲示されている。これは、児童一人一人の現在の夢や希望であり、まさに、一年後「なりたい自分」の姿である。ところが、年度末や学期末に目標を振り返る際に、児童から「ぼくの目標は何だったかな。」とか「わたしは目標を何となく達成できたと思う。」などの声を聞くことがある。せっかく立てた目標であったのに、これでよいのであろうか。このことで、どのような資質・能力を育成することができたのであろうか。では、どのように目標への取組について、指導していけばよいのだろうか、考えていきたい。

2 なりたい自分について

「なりたい自分」とは、将来を見通して、今の自分にできることを考え、よさや可能性を生かして実践しながら、よりよい自分づく

りを目指す視点である。

このことについては、学級活動(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」との関連が深く、「みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動」(国立教育政策研究所教育課程研究センター)には、発達の段階に即した指導のめやすに次のような例示がある。

<低学年の指導>

身近な将来に目を向け、「なりたい自分」について話し合うようにする。例えば、この一年でどのような姿を目指すのか考え、達成可能な具体的な目標を立て、がんばって取り組むようにする。

<中学年の指導>

今までの自分を振り返り、よりよい自分になるためにはどうすればよいかを考える。「なりたい自分」に向かって具体的な目標や課題の解決方法を決め、継続した実践に取り組んで、自らの成長を実感できるようにする。

<高学年の指導>

将来の自分を思い描き、「なりたい自分」の実現に向けて「今できること」に一生懸命に取り組むようにする。また、学級での話し合いを生かして考え、意思決定したことを友達と認め合い高め合いながら粘り強く取り組むことができるように配慮する。

以上のことから、「なりたい自分」に向けてがんばる力を育成するには、児童一人一人の目標への取組において、学級活動(3)の実践を通して行うことが有効であると考えます。

3 学級活動(3)について

学級活動(3)では、現在及び将来にわたってよりよく生きるために、自分に合った目標や具体的な方法を意思決定し、なりたい自分を目指すことができるような自己実現を図る力を育てていく。

目標への取組については、学級活動(3)における次の内容と関連がある。

ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成

学級や学校での生活づくりに主体的に関わり、自己を生かそうとするとともに、希望や目標をもち、その実現に向けて日常生活をよりよくしようとすること。

また、「小学校学習指導要領解説 特別活動編」に、学級活動(3)の学習過程は図1のように例示されている。

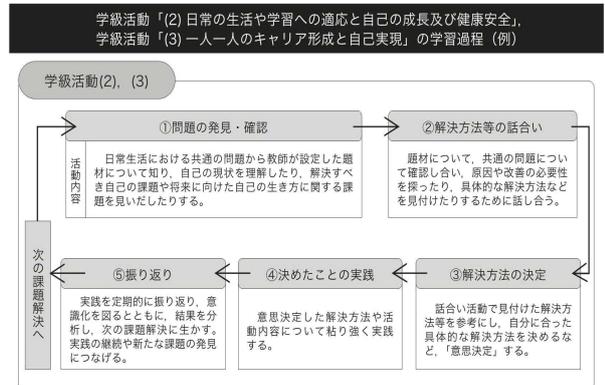


図1 学級活動(3)の学習過程

図1の「①問題の発見・確認」とは、児童一人一人が日常生活や将来に向けた自己の生き方に関して、課題を確認し、解決の見通しをもつことである。「②解決方法等の話し合い」及び「③解決方法の決定」とは、話し合いを通して自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えたりして自分に合った解決方法を定めるなど、「意思決定」する

までの過程が示されている。また、「④決めたことの実践」及び「⑤振り返り」については、意思決定しただけで終わることなく、決めたことについて粘り強く実践したり、一連の活動を振り返って成果や課題を確認し、自分の努力に自信を深めたり、更なる課題の解決に取り組もうとする意欲を高めたりすることが重要であることも意図して示されたものである。

これらのことを踏まえ、目標への取組を題材とした学級活動(3)の実践を提案する。

4 学級活動(3)の実践

題材「6年生になって」

学級活動(3)

ア 現在や将来に希望をもって生きる意欲や態度の育成

(1) 事前の指導・・・①問題の発見・確認

5年生の頃の自分を振り返るとともに、6年生の目標について考えていくことを伝える。

また、図2のように一年後のなりたい自分の姿を考えさせる。その際、どうしてそうなりたいのか、理由を明確にさせることが大切である。さらに、図3のように「一年後の自分へ」という題で作文を書かせる。

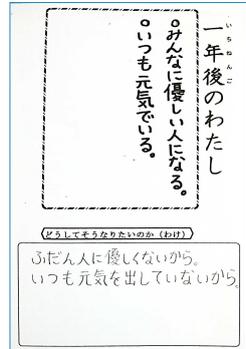


図2 「一年後のわたし」カード

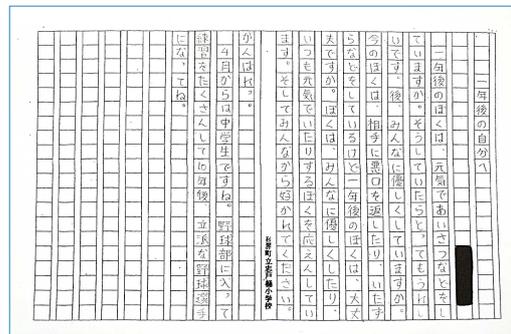


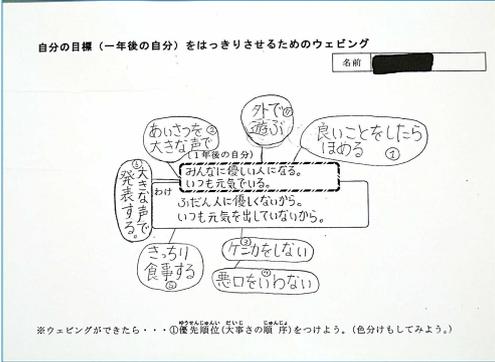
図3 「一年後の自分へ」の児童の作文

そうすることで、目標に対する切実性や問題意識を高めることができ、事前の指導において、重要なポイントである。

ア 本時のねらい

これからの学級や学校生活に希望や夢をもち、自分なりのめあてをもって学校生活を送ることができるようにする。

イ 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点	資料等
つ か む (5)	1 5年生の1年間を振り返り、自分や友達、自分たちの成長について話し合い、問題意識を高める。	○ 5年生の1年間で様々な経験や努力したことを振り返り、一人一人が成長したことに気付くことができるようにする。	・ 5年生を振り返って記入したもの(キャリアパスポート等)
	になりたい6年生に向けて、自分が実践することを決めよう。		
さ ぐ る ・ 見 つ け る (30)	2 これまでの自分を振り返って、「になりたい6年生」について、自分なりの願いをもつ。 3 「になりたい6年生」に向けて、どのようなことを実践すればよいか考え、グループで話し合う。	○ 本時の学習の見通しと意思決定すべきことが分かるよう、学習のプロセスを説明する。 ○ 学習カード(ウェビング)等で一人一人が考えた上で話し合うことができるようにする。 ○ グループでの話し合いでは、一人一人が「になりたい6年生」に向けての自分の思いを発表し、どのようなことを実践すればよいか、意見を出し合うようにする。その際、付箋などを活用することで、多様な意見が出されるようにする。	・ 学習のプロセスを示したもの ・ 学習カード(ウェビング) ・ 付箋
			
決 め る (10)	4 「になりたい6年生」に向けて、これからがんばることを決め、目標カードに書く。	○ 話し合いで出された意見などを生かして、自分に合った実践可能な具体的な目標や実践方法を意思決定することができるようにする。	・ 目標カード(キャリアパスポート等)

(3) 事後の指導・・・ ④決めたことの実践 ⑤振り返り

ア 意思決定した目標の実践

意思決定した目標に向かって実践する。児童一人一人の目標を掲示するなどして、実践への意欲付けとなるようにする。また、児童一人一人の努力の結果だけでなく、目標実現に向けた児童の活動の過程を見取り、励ましたり、学級通信等で家庭との連携を図ったりすることで、より効果を高めることができる。

イ 実践についての振り返り

毎日や週末、月末の帰りの会などに振り返りを行う機会を設定し、継続した実践となるようにする。その際は、次のような視点で振り返りをさせるとよい。

<振り返りの視点(例)>

- ・ 自分の目標に対して、今日(今週または今月)の自分はどうだった(具体的な姿)か。
- ・ 自分の目標に対して、望ましい姿や望ましくない姿だったのはなぜか。また、どのように感じたか。
- ・ 自分の目標に対して、今後、どのように取り組んでいくか。

上記の振り返りの視点を基に、ノートや学習カード等に記述させる。例えば、帰りの会で「自分物語」と称して、5分間程度ノートに記述させるなどの取組(写真)が考えられる。



写真 帰りの会で振り返りをする児童の様子

そうすることで、自分の目標をより意識して実践することができるようになる。加えて、自分の思考や行動を客観的に把握し認識する、「メタ認知」に関わる力や、自分自身を振り返る力、書く力などを高めることも期待できる。

また、必要に応じて、今の目標を見直し、

新たに目標を立てて取り組むことができるようにすることも大切である。さらに、年度末には、学級活動の時間などに、本年度の自分の目標の達成度を振り返るとともに、次年度に向けての自分の目標について考えることも大切である。

5 終わりに

児童の目標実現への自主的な取組は、「自分もやればできる。」、「がんばってよかった。」などの自己効力感や自己肯定感の高まりにつながる。そうすることで、児童一人一人が「努力することは大切だ。」、「これからもがんばりたい。」などと前向きに考えられるようになり、次の目標実現への意欲にもつながっていく。

また、こうした目標への取組だけでなく、その他の様々な活動においても、自分なりの目標をもたせ、その目標に向かって努力し、その結果、どうであったかなどを振り返るといふ一連の流れを積み重ねていくことも大切である。

このような取組の積み重ねによって、「なりたい自分」に向けてがんばる力が育成されていくのである。

また、教師自身も「なりたい自分」に向けてがんばることも大切ではないだろうか。そして、時には、その取組を児童に語ることもよいのではないか。うまくいったこともうまくいかなかったことも、児童にとってはとてもよい手本となるとともに、児童との信頼関係が高まっていく。

ぜひ、教員と一緒に、「なりたい自分」に向けて取り組むことを通して、児童の「なりたい自分」に向けてがんばる力の育成を図ってほしい。

—引用・参考文献—

- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別活動編』平成29年7月
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター『みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編』平成30年
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校特別活動』令和2年

(教科教育研修課 植元 裕次)